

# 教師ノート

日付	2011年 7月10日
単元	モーセ・2
テーマ	ただひとりの神さま
タイトル	金の子牛
テキスト	出エジプト24:12-18、32:1-35
参照箇所	出エジプト20:22-23、33:1-6
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	申命記6:4

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

[小下3巻1題8課](#)

## □導入

みなさんは、約束を守りますか？破ってしまったことはありますか？イスラエルの民は、十戒を約束どおり守っているでしょうか？

## □ポイント1 イスラエルの民は偶像をつくって礼拝してしまいました(24:12-18、32:1-6)

ある日、神さまがモーセを呼ばれました。「山に登り、私のところに来なさい。イスラエルの民を教えるために、私が書きしるした教えと命令の石の板をあなたに授けよう。」そこで、モーセとヨシュアは山に登って行き、40日40夜の間、神さまからおきての石の板をいただくためにそこにいました。この40日の間に、神さまは、聖所(箱・贖いのふた・燭台・幕屋など)と祭司(装束や任務)に関する教えなどを与えてくださいました(25~31章)。そして、モーセは、神さまの指で書かれた「あかしの板」を授かりました。

その間、モーセたちがなかなか帰ってこないの、待っている民は不安になりました。「モーセは山で死んだんじゃないのか？」とか「私たちを見捨ててどこかへ行ってしまったのかもかもしれない…」などと考えたでしょう。待ちきれなくなった民は、アロンにお願いをしました。(リーダーであるモーセが留守の間、代理役をしたのはアロンでした。)  
「私たちを指導してくれたモーセは、もうどうなったのかわかりません。どうか、私たちを導いてくれる神さまを造ってください。」これはとんでもなく大きな過ちです。神さまは、ただひとりです。私たちを造ってくださったお方です。それなのに、自分たちで他の神を造るなんて！

ところがアロンは、この願いを聞き入れてしまいます。「よろしい、ではあなた方が、エジプトから大切に持ってきた財産である、金の耳飾りをはじめ、私のところを集めなさい」と言いました。みんなが言うとおりにしたので、大量の金が集まりました。アロンはそれを溶かして、子牛の形を作りました。ピカピカに輝く子牛を見て、人々は「これが私たちをエジプトから連れ出してくださった神さまだ」と喜びました。そして、アロンは、祭壇を作り、次の日にはお祭りをして、いけにえをささげました。彼らは、動けない作り物の牛を、偉大なる全知全能の神さまに代えて、礼拝したのです。人々は、祭壇の周りで、食べたり飲んだり、歌ったり踊ったり、大騒ぎをしました。彼らは、エジプトから救い出され、マナで養われ、十戒を与えられたことも忘れて、大きな罪を犯してしまいました。

☞ 子牛＝牛は力と多産の象徴であることから、神のイメージとして、古代エジプトやその他の国で一般的でした。イスラエルの民も、エジプトで、そのような偶像的な文化の影響を受けたと推察できます。

## □ポイント2 神さまもモーセも怒りました(32:7-24)

神さまはモーセに「すぐ山から降りなさい。イスラエルの民は、墮落してしまったから。彼らは早くも、十戒を破って、ほかの神を造り、それを礼拝している。こんな言うことをきかないガンコな民は滅ぼしてしまい、モーセの子孫だけを、契約の民として祝福しよう」と言われました。

しかしモーセは、すぐに神さまになげいて願いました。「主よ。どうか、あなたの燃える怒りを静め、わ

ざわい下すことを思い直してください。」すると、神さまは、あわれんで、モーセの願いを聞き入れてくださり、わざわざを下さないようにして下さいました。

モーセは神さまに感謝して、山を降りました。そのとき、2枚のあかしの板を持っていました。その表と裏に、神さまが教えと命令を刻んでくださったものです。しかし、宿営に近づいて、子牛と踊りを見ると、モーセの怒りは燃え上がりました。手に持った板に書かれた教えを、まったく破る大罪を目の前にしたからです。彼はあかしの板を投げ捨て、砕いてしまいました。民が、神さまとの契約を、壊してしまったことを象徴するかのようです。モーセは、アロンたちが造った金の子牛を火で燃やし、さらに粉々に砕きました。それを水の上にまき散らして、イスラエル人に飲ませました。モーセはアロンに「あなたは、いったいどうして、こんな大きな罪を犯させたのですか！」と言いました。アロンは筋のとおらない言い訳しかできませんでした。

☞うなじのこわい＝強情な→左右に手綱を引いても、馬が首を向けず、言うことをきかない(首の後ろが硬い)様子から

### □ポイント3 神さまは、罪を犯した人たちに、罰を与えられました(32:25-35)

モーセは「あなた方の中で、主に従っていく人はだれですか？その人は私のところに集まりなさい。」と言いました。するとレビ族の人が集まりました。モーセは彼らに、罪を犯した人たちを殺すように命じました。とても厳しい罰です。3000人が殺されるなんて、本当に恐ろしいことです。イスラエル人が、神さまとの特別な約束を破って、偶像を拝んだことは、それほど大きな罪だったのです。

翌日、モーセは自分が罰を受けて死ぬ代わりに、民の罪を赦してもらう覚悟で、神さまのところへ行きました。そして「彼らの罪をお赦しください。あなたの書物(裁きのときに救われる人の名前が書いてある)から、私の名を消し去っても構いません。ですから、代わりに、彼らを生かしてください」と言いました。すると神さまは「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう」と言われました(罪を犯して悔い改めない人には、当然の報いがある、という意味です)。彼らの罪は、神さまとの関係の根底を壊すひどいものでしたので、大目に見る・見過ごすということはできなかったのです。しかし、神さまは、みなを滅ぼすことはされず、約束の地への旅も、取り消しにはなりませんでした。

※ここでは、罪を犯した人たちが罰を受けましたが、イエスさまを信じる人は、そのような罰を受けることはありません。なぜなら、罪の報酬は死ですが、その罰は、すべてイエスさまが私たちの身代わりになって受けてくださったからです。モーセはただの人間ですから、みんなの罪を赦すことはできませんでした。しかし、神の子キリストが、ご自身の命をあがないの代価としてささげてくださったことにより、全人類の全ての罪が赦されたのです。なんと大きな恵みでしょう！感謝して、もしまだ告白していない罪があるなら、お祈りをしましょう。素直に悔い改めるなら、全ての罪は赦されます。

### □結論 ただ主だけを礼拝しましょう

#### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう) ただ主だけを礼拝しましょう

例①神さまだけを礼拝しましょう。神さまは、私たちが造ってくださった創り主で、なんでもできる神さまです。人に動かしてもらわないと何もできない作り物の像ではありません。聖書の神さま以外の神々を礼拝したり、宗教に加わってはいけません。神さまとの関係だけを、大切にして祝福を受け続けましょう。また、お金や恋愛や遊びを、神さまより大切にしてしまうと、それは偶像になります。いっぱい遊ぶこと、どんどんお金をためることは決して悪いことではありませんが、それが神さまとの関係より上位に来てしまってはいけません。いつも神さまを第1にしましょう！

例②神さまと約束したことは守りましょう。イスラエルの民は、十戒を守る約束をしてすぐに破ってしまいました。神さまの前に決心したことは、真実に守り続けましょう。絶対にスゴい祝福をくださるよ。

例③モーセのように、とりなしの祈りをしよう。特に、他の神さま・宗教を信じている人を裁くのではなく、愛をこめて、とりなして祈ろう！